

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

## 平成25年大口町教育委員会 9 月定例会議

平成 2 5 年 9 月 2 6 日

午前 9 時 3 0 分 開 議

大口町立南小学校 2 階 会議室

### 議事日程

日程第 1 委員長報告

日程第 2 教育長報告

日程第 3 議事録署名者の指名

日程第 4 議 題

認定第 4 号 平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

日程第 5 協議事項

- ( 1 ) 平成26年度町内小学校へのフッ化物洗口導入について
- ( 2 ) 図書館協議会委員の推薦について

日程第 6 連絡事項

- ( 1 ) 大口町中央公民館耐震補強工事の報告について
- ( 2 ) 全国学力・学習状況調査結果の報告について
- ( 3 ) 第11回伝統芸能発表会について
- ( 4 ) 大口町教育委員会後援名義の使用許可の報告について
- ( 5 ) 行事予定について

日程第 7 その他

## 出席委員

委員 長 吉 田 哲 也  
委員 丹 羽 孝 子

職務代理者 中 里 みどり  
委員 丹 羽 茂 文

## 説明のため出席した者

教 育 長 長 屋 孝 成

生涯学習課長 竹 本 均

学校給食センター所長 社 本 健 二

学校教育課長補佐 佐 橋 竜 午

生涯教育部長兼  
学校教育課長 杉 本 勝 広

町立図書館長兼  
歴史民俗資料館長 熊 崎 哲 也

学校教育課主幹兼  
派遣指導主事 伊 藤 勝 治

学校教育課主査 三 輪 典 幸

## ◎開会

○吉田委員長 それでは、おはようございます。

本日出席の教育委員は5名全員おります。

定足数に達しておりますので、これより大口町教育委員会9月定例会を開会いたします。

本日の会議の傍聴人は2名いただいております。

会議傍聴する方には、大口町教育委員会傍聴規則を遵守いただきますようお願いいたします。

議事に入る前に、本日の会議の非公開とする案件についてお諮りします。

会議次第の3番の議題、認定第4号につきましてですが、個人に関する案件のため、非公開としたいと考えますがいかがでしょうか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

○吉田委員長 それでは、認定第4号は非公開と決定いたします。

(午前 9時29分)

---

## ◎日程第1 委員長報告

○吉田委員長 では、2番の報告に入ります。

(1) 委員長報告といたしましては、初めに、これで1年間の委員長の職が終わるわけですが、1年間皆様の御協力により無事終わられましたこと、ありがとうございました。お礼申し上げます。

なお、9月は私の体調が悪いこともあり、なおかつお彼岸の忙しい時期でもあり、余り意識がこっちのほうに来ておりませんでした。特に悪い報告というのは受けておりませんので、無事進んでおるかと思えますし、またあちこちで運動会の練習の音も聞こえております。無事運動会が迎えられることを願っております。

---

## ◎日程第2 教育長報告

○吉田委員長 それでは、2番の教育長報告をお願いいたします。

○長屋教育長 改めまして、おはようございます。

2学期になりまして、ほぼ1カ月ほどがたつわけでありまして、本当に実りの秋を迎えたきょうこのごろであります。

現在、各学校とも順調に教育活動が展開されているようでして、また今週の土曜日には小学校の運動会、来週の3日木曜日に中学校の体育大会が予定されておりまして、スポーツの秋本番を迎えております。

まず昨日の件ですけれども、こういう事案が発生しました。昨日、この大口南小学校の西側

の道路付近のところでありますが、そこへ小牧の高校に通う女子生徒が通りかかった折に、車から男が生徒に向かって何かしらの液体をかけた。そして、また戻ってきてかけたという事案が発生しました。7時ぐらいのことです。その件につきましては、高校生は学校に助けを求めたので、先生方が出てきて警察への通報、それからさくら病院への搬送という、そういう事案が発生しております。かけられた液体が何であるかよくわからない状況でありますけれども、ちょっとここら辺がただれたという話を聞いております。大変物騒な状態だなあと。きのうの夕方の19時前後のころです。

なお、防犯カメラにはそのことが映っておりまして、警察も資料として持っていったようであります。また、各学校にも気をつけてほしいということで、緊急連絡網で流してあります。

報告事項であります。9月議会があすで閉会になるわけですが、一般質問の中では、大きく分けて生涯教育部関係では3点ほど出ておりました。

1つは、昨年度から始まりました通学路の緊急安全点検後の安全対策の進捗状況はどうかということで質問があり、現在、随分安全点検には気をつけて進めているということであります。

それからもう1つは、アレルギー対応についてどうか。これについても、夏季休業中に大口町内、それからさくら病院を使って、2回のアレルギー対応・対策で講習会が持たれまして、各学校の先生方、幼稚園と保育園についても講習を持ち、実際にデモ機を使ってエピペンを打つ、そういう練習もしてきました。

それから3点目ですが、県の緑化推進事業と絡めて、大口南小学校で新しい机とか椅子で何でこういう緑化推進事業を活用しなかったかという質問が出ておりました。これに対しては、金額的に補助金が出ておるけれども、現在ここで使っている机、椅子のほうが安いということ。多少の値段の違いならばそちらを使いたいという気持ちもあったんだけど、それは購入個数というのが限られているということで、導入を断念したという回答になっております。

それから別件ですが、また後で報告事項であります。ことしの4月に悉皆調査で実施されました全国学力・学習状況調査の結果が8月末に出ました。後ほど伊藤主事から説明があるかと思いますが、それぞれ各学校、結果をきちんと分析をしまして、学力向上に向けて有効活用するように学校連絡会で伝えてあります。

それから、後で協議事項として出てきますが、9月13日に学校教育課、健康生きがい課、そして尾北歯科医師会長、大口の支部長、それから半田市の保健所の保健管理監、江南保健所、それから各学校の校長とか養護教諭が集いまして、フッ化物洗口についての打合会を持ちました。この折、前もって質問事項を各学校から提出をしていただきました。資料についているかと思いますが、そしてそれに対して歯科医の専門の立場から回答するという流れで会を設定し

ました。質問の中には、フッ化物洗口の児童への健康被害が問題じゃないか、あるいはフッ化物洗口というのは効果があるのかと。実施するに当たってはどんな問題点があるのか。また、フッ化物洗口そのものが教育活動なのかというような観点からたくさんの質問が出てきましたが、それらに対しては専門の立場から丁寧に回答をいただきまして、多くの実施上の問題点を整理することができたというふうに思っております。

それから、今後の予定で1つ、前もって連絡をしておきたいことでありますが、12月11日に大口の教育を考える会というのを、今年度で3回目になりますが、開催をしていこう、夜7時から予定をしておりますので、よろしくお願いをいたします。

それから、10月1日には教育委員の辞令交付式、それから臨時会を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○吉田委員長 ありがとうございました。

---

### ◎日程第3 議事録署名者の指名

○吉田委員長 それでは、3番の議事録署名者の指名に入ります。

私と丹羽孝子委員でお願いいたします。

---

### ◎日程第4 議 題

#### 認定第4号 平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

○吉田委員長 では、4番の議題ですが、こちらのほうは非公開案件ですので、審議に入る前にここで暫時休憩といたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退席をお願いいたします。

(傍聴人退室)

○吉田委員長 休憩を閉じます。

それでは、認定第4号についてお願いいたします。

○佐橋学校教育課長補佐 それでは、認定第4号について説明をさせていただきます。

平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について。

別紙の者を平成25年度要保護及び準要保護児童生徒に認定したいので、大口町教育委員会の認定を求める。平成25年9月26日提出、大口町教育委員会教育長。

提案理由としましては、この案を提出するのは、大口町就学援助費事務取扱要綱第2条により認定するため必要があるからである。

1枚資料をはねていただきますと、本日お配りした資料でございます。平成25年度要保護、準要保護名簿追加というものがついておるかと思えます。対象者の申請理由としましては、児

童扶養手当の支給が決定されたためということでございます。また、認定につきましては、今回が新規になるというものでございます。

また、1枚はねていただきますと、平成25年度の要保護、準要保護児童生徒数一覧ということで、参考で資料をつけさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○吉田委員長 ありがとうございます。

これは新規ですけど、転入でしたか。

○三輪学校教育課主査 実はこの方というのが、転入を試みえた方なんですけど、最近という話ではなくて、2年ほど前に既に転入をされてこられた方なんですけれども、当時は児童扶養手当の申請のみをされていて、こちらの準要保護の申請をされていなかった。忘れていたというわけではなく、この方があえてしなかったという経緯がございました。今回、ちょっといろいろな事情があったということで、今回の新規の申請に至ったということでございます。

○吉田委員長 生活状態が余計苦しくなったという。

○三輪学校教育課主査 ではないかと思えますけれども。

○吉田委員長 何か御質問、御意見。

(挙手する者なし)

○吉田委員長 では、この2人については認定をいたします。

暫時休憩といたします。

(傍聴人入室)

○吉田委員長 休憩を閉じます。

済みません、お手数をおかけしました。

---

## ◎日程第5 協議事項

○吉田委員長 では、5番の協議事項に入ります。

(1) 平成26年度町内小学校へのフッ化物洗口導入についてをお願いいたします。

○佐橋学校教育課長補佐 それでは、フッ化物洗口導入についてについて説明をさせていただきます。

先ほど教育長からの報告にもありましたとおり、9月13日金曜日にフッ化物洗口に関する打合会を実施いたしました。今回資料としてつけさせていただきます最初の4枚は、その会議の結果の議事録をつけさせていただいております。その議事録の後ですけれども、当日の打合会の次第、またこの次第を1枚はねていただきますと、出席者名簿ということで、尾北歯科医師会の梶浦会長様、また尾北歯科医師会の大口支部長の大島様、また半田保健所の保健管理監の井後様、江南保健所主査の太田様等、専門の方に出席していただきまして会議を進めさせていただ

きました。

なお、梶浦様、大島様、井後様につきましては、それぞれ歯科医の先生ということでございます。

また、1枚はねていただきますと、当日江南保健所の太田様から資料をいただいております。2番目の黒い四角のところですが、愛知県内のフッ化物洗口実施状況というものがございます。平成24年3月末現在ということで、愛知県全体で、小学校としましては981施設あるうちの289施設が実施しているということで、約3割の学校が実施しているという状況でございます。

また、江南保健所管内につきましては、小学校については32施設のうち5施設ということで15.6%。この5施設というのは、岩倉の小学校が実施しているというような状況でございます。

その下ですが、岩倉の小学校と大口町の小学校の児童の永久歯の齲蝕の保有率ということで、虫歯の保有率というのが棒グラフで資料がついております。1年生では同じ数ということですが、2年、3年、4年、5年生とそれぞれ差が出ているというようなデータもいただいております。

1枚この資料はねていただきますと、その次にフッ化物の洗口に関する質問表というものが出ております。こちら両面刷りで、会議を行う前に各学校から事前に質問をいただきまして、これらの質問に対してそれぞれ御回答をいただいということでございます。

会議の内容ですが、学校からは健康被害というものについて、例えば副作用や後遺症が出ないか、アレルギーを引き起こさないかというようなさまざまな質問が寄せられてきました。これらに対して、3人の歯科医の先生から専門的な見地で正しい情報を説明していただき、例えば用法ですとか用量を守れば、100%安全な薬剤ですよというような回答をいただきました。また、学校からは、何かあったときの責任の所在はどこなんだというような質問もございましたけれども、この薬剤については、国が薬事法で認めた薬剤であるということです。何か問題が起こった場合は、国が補償することになるというような御回答もいただきました。

また、フッ化物洗口の実施の是非について、さまざま団体から意見や問題点が指摘されております。子どもの健康と環境を守る会というような団体ですとか、日本弁護士連合会、本日この資料にはついておりませんが、そういった団体から指摘がされておりますけれども、そういったことについても、世界的にもWHOや医学や歯学、そういった保健機関でフッ化物洗口は推奨されておることと、フッ化物洗口の安全性や効果についてもそれらの機関は認めているというような説明。また、このフッ化物洗口は強制的に行うものではないよと、実施するというのであれば保護者の同意を得て実施するものですよというような説明がそのとき

にされました。

また、学校の先生からの質疑の中で、一部の歯科医の先生の中には否定的な見解をお持ちの方も見えるというようなことがございました。こちらにつきましても、歯科医師の免許を取るための国家試験では、このフッ化物洗口が虫歯予防に効果があるかというような問題が出れば、丸が正解であるということと、この件については、歯科医の一部の方が経営的な面から否定的な方が見えることも事実でありますというような正直な御回答をいただいております。こうしたさまざまな情報がフッ化物洗口についてはありますが、この会議の中では専門の歯科医師の先生から正しい知識、また正確な知識を出席した全員の方が共通理解をすることができたということで、この点について大変有意義な会議になったのではないかなあと考えております。

また、フッ化物洗口の実施に当たって、ほかに多かった意見としまして、そもそも家庭で行うべきで、保健センターの仕事ではないかと。また、歯磨きの技術や習慣を身につけるといったことについては教育的価値が高いけれども、フッ化物洗口は学校で実施するべきことなのかというような、学校現場で実施することに対する疑問というのも多く寄せられておりました。こちらにつきましては、家庭で実施ということになりますと、どうしても興味のある親は一生懸命やるというようなことになりますが、興味のない親は全くやらないというようなこともございまして、そういった健康格差というものを是正するということで、学校現場で集団で実施することを推奨しているというような御説明もいただきました。こんな内容で会議が進められましたが、教育委員会事務局としては、今まで岩倉ですとか北名古屋市、また大口西保育園の視察をしてきましたけれども、そういったところのよい例を取り入れて、また今後学校とできないことを詳細に詰めて、最大限学校の負担にならない方法を協議しながら実施するという方向で進めていきたいと考えておりますので、御協議のほどよろしく願いいたします。

○吉田委員長   ありがとうございます。

ちょっと質問いいですか。この協議事項に出たということは、ここで協議して大口町内の小・中学校でやるということを決めるということですか。

○長屋教育長   そういう方向でいきたいと思っておりますけれども。

○吉田委員長   もう1点ですけど、ちょっと私余り知らなくて申しわけないですけど、このフッ化物洗口というのは、月に1回やればいいのか、毎日やらなければいけないとか、そういうことはどういうふうですか。

○佐橋学校教育課長補佐   フッ化物洗口は週に1回実施をするというようなことを、今まで視察に行ってきた学校、岩倉ですとか北名古屋市につきましては、週に1回行っておりました。ただ、保育園や幼稚園については、液を薄めて毎日実施するというようなことを行っております。



今回小学校でやろうとしているのは、週に1回ということで予定をしております。

○吉田委員長 モンダミンとかリステリンとかああいうようなやつで、ぐちゅぐちゅやるようなことをするということですか。

○佐橋学校教育課長補佐 そうです。市販のミラノールとか、あとほかにも種類があるんですけども、そういった薬がございまして、それを水で希釈をして、希釈をしたものを児童が口に入れてぶくぶくうがいをするような格好でうがいをやって、それをまた吐き捨てるというようなことで、ぶくぶくうがいを1分間行って吐くということで、その後効果が出てくるというようなことでございます。

○吉田委員長 ありがとうございます。

いかがですか、御質問。

○丹羽（茂）委員 週1って、もう26年度から毎週やるわけですか。ずうっと1年間。

○佐橋学校教育課長補佐 もし実施するということになりましたら、26年度から週1回行ってきたいと考えております。

○丹羽（茂）委員 3つの小学校で。

○佐橋学校教育課長補佐 はい。

○中里職務代理者 大中はやらないんですか。

○佐橋学校教育課長補佐 中学校は今のところ考えていません。

○吉田委員長 もう1ついいですか。

その薬剤を購入しないといけないですね。もし学校でやるとなったら、その費用というのは、父兄が負担するのか。

○佐橋学校教育課長補佐 もし実施するということが決まりましたら、26年度の当初予算で、学校教育課で予算を組ませてもらいたいと思います。薬剤以外の必要なもの、ほかにも希釈用のボトルですとか、保管するための冷蔵庫とか、そういった必要なものがあれば、それは町のほうで予算を組んで対応していきたいと考えております。

○吉田委員長 じゃあ、町として健康の保持のための投資という考え方ですか。

○佐橋学校教育課長補佐 はい。

○中里職務代理者 小学校の先生たちの負担というのは、どういった負担がかかってくるんでしょうか、これによって。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長 済みません、今委員が言われたところが実は一番ポイントです。教育長、それから佐橋補佐が先ほどから説明しております家庭教育と学校教育のボーダーが、学校側へシフト、学校でとにかくやらせるみたいな、かなり教育現場におもしがかってきているんですね。このフッ化物洗口をやることによって、養護教員ですとか担任の負担は

どうなっちゃうのみたいなところがやっぱり学校側としては不安がある。それを我々教育委員会としてはいかに少なくするかという方法を、これから模索していく段階に入りたいと思います。それが学校側でここまでならできる、教育委員会としてここまでならできるところを探らないと、確かにフッ化物洗口で子供の歯がよくなることはいいことだよね、よければ何でも学校でやるか、それは絶対だめだというところをこれから議論していかないかと。

今まで3カ所見させていただいたところで一番気になっているところは、岩倉東小学校の養護教諭、すごい作業量なんです。実は、子供たちが口に入れるものの掃除から、集めて掃除して乾かして、もう一度掃除して1週間保管する、すごい量。ある学校へ、北名古屋ですか、お邪魔したときには、そうじゃなくて、子供たちは既に歯磨きのコップをランドセルにぶら下げて学校へ来ている。そのコップを使って自分たちがやるというシステムを取り入れておってくれます。そうすると、養護教諭の先生、担任の先生の負担はかなり少なくなるということもいろいろ今研究させていただいています。

委員長が先ほど言われた、薬扱うのに誰が希釈して誰が保管するという話になると思うんですが、そこは我々が薬剤師さんに頼むなり何なりして、学校側の負担をとにかく軽減する、薬剤師さんが調合したものを学校まで運べば、あと学校でやれること、ここはできませんかねというところを探っていくのがこれからの作業になっていくと思います。この打ち合わせの中で、学校側も確かにいいことだと、出席する人間全部はいいことだということをみんな認識しているんです。ただ、子供の安全を確保できるのか、それともう一つ、学校側の授業がただでさえ削られておるのに、これ以上削ることは無理だ。じゃあ、こういうことはどうですかという話をこれから実務的に進めて行くことなると思います。

大口町が進めておりますのが、健康おおぐち21という大口町2万2,000人の健康をどうしていこうかというところを今プランニングしているところなんです。その根本になるところが8020、いわゆる80歳になったときに20本の自分の歯を持ちましょうというところを基本に進めているんですね。そうすると、8020って、今10歳の子供が80歳になるまで70年あるわけですけども、じゃあ10年後にスタートすればいいかと、そうではなくて、今やってあげられることはやってあげるべきだろうというところで、今スタートしておるところでございます。その子たちが80になったときに健康であってくれば、当然大口町の医療費の軽減にも当然つながっていく話。そういった長い目で見たプランを考えておるところです。

いろいろ心配されておるところありますし、教育委員会としても、それじゃあ年度だから来年の4月から用意ドンと、そんなつもりは全くございません。こういった形で打ち合わせさせてもらったのは、そのときにも申し上げたんですが、とにかく不安を払拭する、不安をなくすというところが大前提だろうなということでございますし、当然学校側、現場にいたしますと

いわゆる不満のほうが多くなるというのは、負担がふえる、リスクがふえる、子供たちの安全は大丈夫かというところを解消したいということで、今まで視察も行きましたし、こういった打ち合わせもさせてもらいながら進めてきております。実際の話、この仕事をやろうとしたときに、教育委員会からもうこれで決定しました、やりますと学校へおろしたほうが仕事は多分進むと思うんですけども、それで本質が全うできるかとそれは無理だということで、ちょっと時間かかっておるんですけども、先ほど申し上げたように、年度からだから来年の4月からスタートする。そうではなくて、新しい先生が来たらそこへもきちっと知ってもらいたいよね、何のための仕事か知ってもらいたいということを考えますので、例えば5月からとか6月からとか、日にちを決めて今進めているわけではなくて、スタートできるときからスタートしてくというような考え方をしております。予算のほうも、もうこれで10月に入りますので予算編成の時期に入ってきますけれども、きょうここでお決めいただくというんですか、大口町の教育委員会としては、ぜひいいことなのでどうですかというようなことをお決めいただければ、予算編成しながら、学校と調整しながら進めていくということで考えておりますので、ぜひいろいろ御意見いただいて、御決定いただけるとありがたいというふうに考えております。

○丹羽（茂）委員 その予算って大体どのぐらいなんですか。予算で上げるつもりって、全然やみくもにじゃないでしょう。1億円かかるんですか。だから、幾らぐらいを大体想定してみえるんですか、想定上。

○佐橋学校教育課長補佐 おおむね概算としましては、30万から50万ぐらいの年間の予算でやれないかなあというふうでは思っておりますが、まだちょっと積算はしておりませんので、概算でございますけど。

○丹羽（茂）委員 基本的には学校でやるということなんですね。希釈した薬剤を渡してお母さんにやってもらいなさいよとか、そういうことではないんですね。学校でどこかのタイミングでやるわけですね。そうすると、洗口ですから吐き出さないかんでしょう、飲むわけじゃないから。そういう場所が、どういうふうにするんですか。やっぱりいろいろ考えなあかんね。時差にしたり、1年生は1時間目の放課とか、2年生は2時間目の放課とか、そうやって時差とか、いろんなことを考えないとね。

それと、たくさん議事録あるんですけど、江南保健所の太田主査さんが言われるには、やってほしいという立場ですよ。だから、もう30%に近い学校が実施しておる。私が捉えると、30%しかやっていないということは、70%が及び腰というのか、やらんでもいいのか、負担なのかと思ってみえるんですよ。この人が言えば3割もやっていると、野球の打者じゃないんだから、3割ばかりでこんなにやっているよと言われても、低い確率ですねと。

それから、さっき部長が言われた、来年度の4月1日から用意ドンではないというふうに言

われるならば、今度10月に任期を終えられて、ここで決めた2人、5分の2が任期を終えて部外者となる。それでここで決めて過半数でというのは、ちょっと何か後味が悪いような気がして、せっかく傍聴人もおられることだから、もう1回か2回ぐらいを練り直して、今これだけの資料をばっと持たれて、いいことだいいことだというのは、それはいいことだとはわかるんですけども、今部長が言われるように、実際やってみたときに、それこそコップ持たせりゃいい話じゃなくて、コップ忘れたとか、どうのこうのといったときは紙コップを用意しておくのかどうのこうのとか、そのうち地域支援のボランティアにツケが回ってくるのか、いろんなことを考えると、さっき委員長が教育長に振られたときに、きょうこれでやるかやらんかこの委員会で決めるのかというのは、私はちょっとごり押しというのか、無理があると思うんですよ。きょう私らが、確かに前もって渡っていましたが、初めて議論することですし、いかがなものでしょう。ほかの委員さんたち、どうですか。きょうぼんと決めて、そりゃあいーいことだ、26年度から実施してよと言って。

○吉田委員長 では、あと数日の立場の丹羽さんの御意見は。

○丹羽（孝）委員 私も孫がフッ素をちゃんと仕上げに磨いて、自分もフッ素で最後やっているものですから、いいことだと思います。

少しお聞きしたいんですが、大口町の小学校は、歯磨きは学校でしてみえるんでしょうか。そうすると、コップをきちっと持ってくるというのが、岩倉と同じようにね。フッ素やらない日はちゃんと歯を磨いているとか、そういうのをやっているのかなというのと、それから、岩倉さんがやられて何年になられるのかなあと思ったんですね。西保育園がやってみえるとお話があったんですが、どのようにやってみえるのか。やっぱり親さんに許可を得てやってみえるのか、その辺が知りたいんですが。

○長屋教育長 岩倉の取り組みは、そもそも平成14年度だったと思います。ですので今から10年ぐらい前に始まって、現時点では岩倉の小学校5校全部やるようになったんだけど、その中に数名は保護者の合意が得られないと。

それから北名古屋市については、合併しましたね、北名古屋市に。前師勝町がやっておって、合併した時点で全部の小学校がやるようになったというふうに聞いております。

岩倉の岩倉東小学校については、小学校3年生まで週1回という実施の仕方でありまして、原液の希釈から配付まで、本当に養護教員が物すごく大変だなあということを思いました。

その後、北名古屋市の見学に行ったときには、希釈するのとか、学級で三十何名の児童に配るのに担任の先生がぱぱっとやれるようなグッズもちょっと工夫をされたものが使われておりまして、かなり能率的になされていた。

それから大口町内の保育園と幼稚園については、年長さんがそれぞれ5月の末ぐらいから実

施をしているという状況でした。

○丹羽（孝）委員　ことしの5月から。

○長屋教育長　いや、もう大分前からやっていますので、保育園も。

○佐橋学校教育課長補佐　平成15年ぐらいだったと思うんですが、幼稚園もやっています。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長　済みません、丹羽委員が言われました、きょうこの場で決めて、教育委員のお墨つきもらったから我々レッツゴーだというつもりは、全くそれはございません。今ここで決めたいのは、方向性としてどうだという議論をした中で、中里委員からも言われたように、じゃあ学校の負担ってこれ以上かけるべきじゃないんじゃない、もっと教育委員会はやることあるんじゃないのとか、いろいろ意見をいただきますので、当然今後につきましても、今こういう状況だ、こういう作業工程で今進んでいますという報告は、当然教育委員会のほうへ正式に報告させていただきますし、ここで決めていただきたいのは、方向性としてやっぱり子供たちの健康は学校も考えるべきだというふうな考え方をお示しいただければありがたいなというふうに考えます。

○吉田委員長　やったほうがいいということは、もうどの観点からもそうでしょうと。じゃあどうやって実施に向けていくかを協議していきましょうという、そういうスタイルということでよろしいですね。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長　回答を申し上げるのを忘れていました。

予算の関係はどうなっているかというお話、先ほど補佐が申し上げたように、イニシャルコストは確かに多少かかるかと思うんですけども、ランニングコストはほとんどかからないというふうに試算しております。ただ、委託して運んでもらうのにどうしよう、じゃあ職員がやれるのかやれんか、用務員がやれるかやれんか、じゃあ薬剤師さんに頼むとどうなるかというところは、もちろん検討していかないかんですけれども、大口町が進めようとしている医療費の何年後に何パーセント下げるという金額に比べたら、微々たるものだというふうに私ども解釈しておりますし、そうあるべきだというふうに考えておりますので、予算が多少、1,000万、2,000万かかるような事業じゃないと思いますので、我々が今度財政側へ折衝していくのに努力は必要だろうというふうに考えております。

○中里職務代理者　北、南、西小学校の校長先生方の御意見というのはどのようなものだったんでしょうか。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長　総体的に校長先生の立場というのは、学校現場を預かっておっていただいている現場で、一番最初に私が申し上げた学校教育と家庭教育のボーダーがどんどん学校側へ来ている状況、担任の今の仕事の状況、養護教員の状況を守る側の校長先生の立場の意見としては、やはりできるだけ家庭でやるべきだろうというのが大勢の意見ですし、

それは当然だろうと。私個人としても、それって本当は家庭でやるべきだろうなと思いつつ、先ほど佐橋が申し上げたように、集団でやることによって子供の健康格差が少なくなるのであれば、やっぱり学校側が協力してほしいなというところがあります。現場としては、なるべく授業は短くしたくない、5分でも短くしたくないと。それから、養護教諭、担任の負担をできるだけ少なくしたいなという意見を、直接この場でも承っております。

○吉田委員長 学校でやること前提じゃなくて、まずフッ化物洗口を何とかやりたいと。それが学校であっても家庭であってもいいわけですので、もうちょっと視野を広げて、学校でやるにはどうしたらじゃなくて、フッ化物洗口するにはどうしたらというスタンスで考えを進められたらどうですか。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長 今委員長言われるように、フッ化物洗口をやるのにという前提の手前が8020、いわゆる大口町の人の歯の健康をどうするかという、そこからスタートしておりますので、今フッ化物洗口を小学校でやる、この場ではもちろん小学校、中学校のことでいいと思うんですけども、健康生きがい課が今考えておってくれるのは、家庭で歯を守る方法をいかにPRするか、いかに啓発していくかというところは考えておってくれます。それがフッ化物洗口なのか、歯磨きという部分なのか、それはあれなんです、とにかく歯が健康を守るために重要だというアピールをできるように、今健康おおぐち21の中ではかなりウェートを高くしておっております。それが進んでいくと、今委員長言われたように、いや家庭でもできるんですよ、大したことないですよ、大人でも、大人は実は余り効果がないようなんですけども、家庭でもできるようなシステムは、当然健康生きがい課で2万2,000人の大口の人を考えたときに、そういった方法というのは出てくるかもしれないです。

スタートはいずれにしても健康おおぐち21、大口町2万2,000人が健康で過ごしていくための一つのメニューとして、歯の健康というところをキーワードにしておりますので、今言われたように、学校だけでフッ素、そうじゃなくて、うちでやったほうがまた効果があるんじゃないのという、そこらあたりは必ず一緒について歩くと思います。

○吉田委員長 今の話で、啓蒙活動というか、それこそ学校でやって、実際作業というのは家庭でというほうがいいような気がちょっとしたので、今ちょっと一言。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長 ありがとうございます。全くそのとおりです。このときもそのような話が出ておりましたけれども、家庭へ帰ると健康格差の話が必ず出るようです、保健所なんかの話を聞くと。子供の教育に熱心、不熱心という意味じゃなくて、どうしてもないがしろにされてしまうというふうで、話としてはどうもあるようでした。何遍も言うんですけど、これから10歳の子が70年過ぎて80歳になる70年分を、我々がやってあげられることはそこなのかなという気はしておるんですけども。

○竹本生涯学習課長 今回の話で、導入に向けての説明を、今の段階では必要だよねということは確認願っているけど、次回のところでどうするかという話で、もう一度説明して決定されたほうがいいんじゃないですか、10月以降に。

○杉本生涯教育部長兼学校教育課長 先ほど言ったように10月以降、もちろん議題としてお願いする、協議事項としてお願いする、報告事項として上げさせていただくということは当然進めていきますので。

○中里職務代理者 予算に関しては、4月スタートにするのか、準備ができればスタートということであると、予算を幾ら上げたらいいかというところで曖昧になってきたりしませんか。

○竹本生涯学習課長 それは今の説明もそうなんですけど、例えば今部長が言ったのは、5月から入れるのか6月から入れるのかというのは条件によって違うよと。だけど、予算をとっておくのはもう4月からとっておかないと、要は残として残すのはしょうがないけど、4月には予算をいただいておかないと26年度にスタートできませんよという話ですから、それは次回のところでも検討いただきながら、多分もうちょっと詳しい段取りが見えてくると思いますので、きょうのお話だと、皆さんにこういうのを導入したいということを考えていると。それについて、導入について検討するのは構わないよという協議の結果をいただいて、また10月以降、再度導入はこうやってやりたいということで御決定いただければいいのかなと。でも、きょういろんな意見が出ましたし、いろんな角度の検討をやってきておりますので、再度10月のところで。

○丹羽（孝）委員 さっき聞いた歯磨きって、給食の後に。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 給食後にですね。子供たち個々で、コップを歯磨きを持ってきておりまして、給食を食べた子から、給食の終わる時間まで時間があるもんですから個々に歯を磨いているという。

○丹羽（孝）委員 1人ずつ、全員一緒というんじゃなくて、どこの小学校もやってみえるということですよ。ありがとうございました。

○竹本生涯学習課長 歯磨き指導は徹底しているんですね、教育現場で。

○長屋教育長 ところが正しい歯の磨き方ってほとんどの大人ができてないんです、歯医者さんに言わせると。

○吉田委員長 継続協議ということでお願いいたします。

それでは、（2）番、図書館協議会委員の推薦について、お願いします。

○熊崎町立図書館長兼歴史民俗資料館長 最初に、この依頼文書がちょっと間違っておりまして、最初の文言の「早春の候」ということで、季語が間違っておりますので、どうも済みませんでした。

図書館協議会委員さんというと、7名今見えまして、図書館協議会委員さんの任期というのが24年度、25年度ということで、今の任期が来年の3月31日までございます。その7名の中の1名が教育委員さんから充て職というような形で推薦をいただいて、図書館協議会委員をやっていただいております。このたび、図書館運営事業に御尽力いただきました教育委員の丹羽孝子さんが退任されるということで、後任の推薦をお願いしたいということで、前任者の残りの任期ということで半年になりますが、お願いをしたいということでございまして、10月から2人新たな委員さんも見えるということで、きょうでもよろしいですし、10月1日でもよろしいですが、10月3日あたりまでに新しい図書館協議会委員さんの推薦をお願いしたいというお願いでございます。

○吉田委員長　じゃあ1日をお願いします。

協議事項ありませんね。

---

## ◎日程第6 連絡事項

○吉田委員長　6番、連絡事項の（1）大口町中央公民館耐震補強工事の報告についてをお願いします。

○竹本生涯学習課長　本年度、大口町の中央公民館耐震補強に関する実施設計に入っております。その実施設計に伴いまして、昨年耐震補強の基本設計をこの会でも御説明をさせていただいておりますが、まずもって耐震に対する基本設計は、建物が地震に耐え得る補強をするということで、この図でいきますと、1ページの上段部分のところに耐震補強工事、防災関係ということで、括弧で赤く示しておりますが、そうじゃなくて、この図の中に四角で、バッテンみたいな形のプレビス工法という、柱をつけることによって建物自体を地震から守るという工事が、基本設計の中では御説明させていただきました。その工事に伴いまして、当然外側の補強も大切だけど、今後使用するのに当たって建物は補強したが、中身の部分はどうなんだということで、庁舎内、関係機関とも調整をしまして、まずもって耐震補強工事、防災に関する工事と耐震補強工事以外、住民目線ということで、住民の方に使っていただくのに当たってどう改修を進めたらいいかということで整理をしまして、これに基づいて実施設計を描いていただくという段取りになります。

まず、上段の1ページのところで、ここで重点的なのが、その中央公民館集会室が避難所から今まで外れておりました。それに対して避難所にするということで、この避難所にかかわる集会室のプレビス工法等の補強プラス、トイレ等の改修、あるいは今クロックがございしますが、そこらに授乳室等つけながら、あるいは障害者用のトイレをつけていくというような文言で集会室の主な改修に取り組んでいくと。そのほか憩いの四季、1階部分につきましては、特に冷



暖房、今後の運営上、全館冷暖房というシステムをとっておりますので、それを個別空調という前提のもとで設計をまいります。

また、上段の写真の中に丸いタンクのようなやつがありますが、災害時、貯水槽をこの施設内で整備をして、万が一水道等がとまった場合、この貯水槽をもって給水ができるようにするということや、この下のほうに少し見えづらいですけど、避難者が多くなったときの下水管トイレを設置するとか、防災倉庫を裏面に建てるとか、そういった文言の内容を含めながら、1階部分については耐震をしていく。また、住民目線としてはトイレの洋式化、あるいは授乳室の設置、個別空調等々を設置しながら進めていくという内容になります。

下段の部分につきましては、これは中央公民館部分です。また、集会室につきましては、集会室の窓部分に当たります。これらについては、飛散防止フィルム等張りながら耐震性を強化していくと。中央公民館の部分につきましては、個別空調を前提として整備をしていくと。当然個別空調を中心として整備しますと、いわゆる天井部分の現在の空調の撤去、また新しいものの配置等がございますので、そういった工事も予定しております。

裏面に入りまして、3階部分につきましては、ちょっと大きく変わしまして、耐震補強という観点とあわせて3階の避難経路確保という意味で、今図書館の児童室のところの壁があるんですけど、それを一面撤去するという考え方を持っております。これによって児童室等でもし地震等がありましたら、北でも南でも逃げていける通路を確保するという意味で、この壁を撤去するという考え方を持っております。また、ちょっと写真では見えづらいかわかりませんが、天井部分に格子のような天井になっておりますので、落下防止ということで、これらについても撤去する方向で新しい天井材という考え方で整備をしていくと。

また、小体育室、ちょっと見えにくいんですけど、この一番下の格子の上のところ、緑の上の部分に図書館部分の授乳室が設置できておらないということで、現在は男女の更衣室ということになっておりますが、一つの部分を改修して、この部分を授乳室等の空間として使えないだろうかということで検討に入っております。そういった形で3階の補強も含めて行くと。

下段の4ページ目のところなんですけど、これにつきましては、一部赤いところで仕切っているこれは、当初集会室の天井を、今段違いのようになっておるんですけど、それを平面的な天井にしたらどうだということの提案をいただきながら、これがいいのか、もう一挙に天井材を撤去して、地震が来たときに構造物である天井材が落下して避難箇所にできないということであれば、天井材を撤去するという考え方も含めて整理に入っております。

あと屋上部分なんですけど、屋上部分につきましては、現在非常用の電源、キューピクル等、あるいは空調機の更新等を含めて考えておるという中で、昨年御説明させていただいた基本設計、今年度実施しております実施設計に向けて、こういう考え方で現在実施設計を進めておる

という報告になります。以上です。

○吉田委員長 ありがとうございます。

御質問ありますか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○吉田委員長 ありがとうございます。

では、(2)番、全国学力・学習状況調査結果の報告について、お願いします。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 要綱の中に3枚あります。後ろの部分です。

4月に行われました全国学力・学習状況調査の結果を受けてということで、大口町について分析をしました。各学校のほうの数値もここではお示しさせていただきますので、御確認ください。数値は正答率です。Aというのが基礎・基本的な学力のテストです。国語B、算数BのBというものが、実生活の中で活用されているような問題が出題された応用的な問題です。その正答率が、大口町としては四角の枠に書いてありますけれども、全国平均と比べてややいいという、全て国語A、国語B、算数A、算数Bについて、全て少しずついいという結果が得られました。

下のほうには、各学校のほうでこういう点がいいよ、こういう点が悪いよということで、僕なりに分析したものが載せておりますので、一度お読みください。

一番下のところは、大口町は1つの中学校しかありませんので、中学校3年生で実施されて、全国平均よりも国語のほうはやや下になっております。数学につきましては、全国平均よりも上です。実際に3年前、平成22年度に大口北小学校が抽出で全国学力調査をやっておりますので、同じ子供たちがどのように中学校3年生になって成長しているのかという観点で、表をつくってみました。

次の2枚目、3枚目のほうは、児童質問紙という、国語、算数の授業の質問から家庭環境を問うような質問の中で、大口町ってどんな傾向があるんだろうかなということで、1つ分析をかけてみました。

質問番号4のところで、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがありますかという点では、小学校中心になりますけれども、小学校で成功体験があると回答した児童が全国平均を上回っている。本当に学校のみならず家庭の中でも、大口町の皆様がやはり成功体験をさせようと努力している姿がこの質問紙からうかがえました。

質問10番と質問9番のところが、子供たちの聞く、書く、話すとかそういう力がどんなところにあるんだろうかなということで、分析をかけてみました。友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。聞くという力は、大口町の子供たちは非常に高いということがわかりました。ただ、質問紙9にあるように、友達に伝えたいことをうまく伝える

ことができますかという点については、南小のほうは9.4%、自分自身に自信がなく伝えることができないということが見えてきました。

次の四角のところは、読書という観点はどうなんだろうというところで、分析をかけてみました。この観点を導き出したのは、1枚目にあります南小学校の国語の学力テストが全国平均よりも非常にいいと、この力がどこにあるんだろうかなあというところで、分析をかけてみまして、これが一緒に読書イコール国語の力だというふうに分析をかけてはおかしいんだろうなあと思いますけれども、こんな傾向があったということで報告させてください。

土曜日の午後は何をして過ごすことが多いですかという点につきましては、全国16%に対して、少しいいという数値が出ておりますけれども、南小は30.2%と2倍のところが出ております。

29番、本を読んだり借りたりするために学校や地域の図書館を活用しますかという点は、南小は全国3.7%のところを13.2%、週に4回は本を借りたりしている。北小も西小もやはり週に1回から3回は借りている。非常に大口市の子供たちは読書に関しては興味、関心があるというところが出てきました。ただ、平日1日どのぐらい読書をしていますかということになると、やはりなかなか時間が持てないというのが西小さんや大口中学校さんのほうが全国よりも大きく、全くしないという数値が出てきました。中学校は、やはり土曜の午後は部活をしているという、全国平均よりもかなり多い数値で部活をしているからということで、やはり子供たちが忙しい状況になって、中学校は読書ができない状況が生まれているんだろうなあということが、ここから全てを評価してはいけませんけれども、そんなことが見えてきました。

次のところです。

今、携帯電話がかなり問題になっておりますけれども、大口町の子供たちってどうなんだろうと、結構持っているんだろうなあと自分自身も思っておりますけれども、全国平均53.9%に対して、携帯を持っていない児童・生徒はということで、持っていない子が、非常にと言っではいけませんけど、多いという数値が出ておりました。大口町の子供たちは携帯電話を持っていないんだろうということがこの数値から出てきております。

56番、先ほどの話に戻ってしまいますけれども、では、聞く力はあるのに伝える力が自信がないという点において、学校の先生方はどうなんだろうということで、56番を取り上げました、普通の授業で学校の学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますかということに対しては、やはり先生方も意識されて授業されているなあということがこの数値からわかってきました。

2年前から大口町の教育を取り組む会ということで、学校では表現力を育てようという部分も出ております。それで、各学校の現職教育のテーマで、伝える力を育てようということが前

面に出されて今授業行われておりますので、子供のアンケートからも学校の先生たちが話すという力において、力をつけさせようということで頑張っている姿が出てきました。

これ以降は西小学校さんのほうがちょっと質問紙が違ったものでして、データがないということがあります、学校の先生がどうなんだろうということで、私指導主事として分析をかけてみました。授業の流れとして、最初の授業の始めにしっかりと子供たちに目標を示されていますかという点では、やはり先生方しっかり目標を示されていることもわかりましたし、最後の授業でよく振り返る活動を行っていますかという点についても高い数値が見受けられましたので、先生たちはそういう授業の流れとしてよく頑張っているなあということを感じました。ただ、下の数値を見て見ますと、国語の勉強が好きですか、意欲面ですね。内容はよくわかりますかという点では、やはり各学校さまざまな数値が出ておりますので、我々この数値は、教師自身きちんと真摯に受けとめて授業改善をしていかなければならないという、今後の課題を得ることができました。

簡単ですけれども、以上です。

○吉田委員長 ありがとうございます。

○中里職務代理者 ちょっと質問があるんですけども、平成25年度の大口中学校3年生と平成22年度の北小6年生を比べたこの数字なんですけれども、これは北小学校のみにしか22年はやってなかったんですね。

○長屋教育長 そうです。このときは抽出校で、あとの学校は当たってなくて、だけどあとの学校は自分で問題をやらせて、先生たちが採点しただけでしたので、資料としては正確じゃない。

○中里職務代理者 なるほど、わかりました。

○吉田委員長 そのほかいかがでしょうか。

○丹羽（茂）委員 質問と感想なんですけど、南小がやっぱり非常に高いというのは、昔から綿々と続いている図書館教育の成果と見ればいいですか。

○長屋教育長 やっぱりそういうふうに理解するのが妥当かなというふうに私は思いますけど。

○丹羽（茂）委員 それと、伊藤先生の話によると、今の北小の数学はそれなりに頑張ったのと、これと教科センター方式との因果関係はどうですか。わからないですか。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 そうですね。ただ数学に関しては、このころから少人数指導が行われているんですね。2学級に分かれたことによって、きめ細かい指導がされて数学の数値が上がって行って、国語はちょっと数値を上げたぐらいになっているのかなあと。教科センターとイコールとして結びつくかどうかわかりませんが、少人数指導が数学では行われてきて、これが成果を出しているかなとも思います。

○吉田委員長 ちょっと今その話が出たんで、この平成22年の北小の6年と25年の大中の3年を

比べても比較にはなりませんわね。南と北と西が入ってきているわけですので。

○長屋教育長 1つは、平成22年度のときの子供たちが中学校の3年間を過ごして、どういうふうに成長したかをわかる資料はこれぐらいでしかちょっとつかむことができないと。

○吉田委員長 町内の小学生の記録が3年後の大中の3年、そこで初めて比較ができる話でしょうね。

○長屋教育長 正確にはそうです。

○丹羽（茂）委員 それともう1つ感想なんですけど、圧倒的に南小の読書に関する、土曜の午前は3割も読書をするというのは、読書が好きだ、読書力も国語も高いんですけど、その割には62で、国語の勉強は余り好きじゃないんですね。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 そうなんです。これもやっぱり南小の先生方は真摯に受けとめて、読書は好きなんだけど、本当に国語の勉強は好きですかというと、そうなんですよ。それで、北小や西小のほうが数値を上げているんですよ。

○中里職務代理者 南小はやっぱり1クラスの生徒が少ないということと、いい結果を出しているという数字との関連性は、どのように見ていらっしゃいますか。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 人数的には関係がないんだろうなあとと思いますが、ただ学年によって傾向があるから、もしかしたらこの学年がよかったかもしれないし、人数的なものとはそんなにはないんだろうと思います。

○中里職務代理者 人数が少ないからきめ細やかな授業ができて、その結果いい数字が出てきたということではないというふうな見解でいいんでしょうか。

○長屋教育長 一概にそのことだけではない。

○丹羽（茂）委員 日で学校回るときありますよね、給食センターでお昼よばれて。一日で見ると、南小に来ると、前のときにもぜいたくな教育だなあと、教室ががらがらに見えますでしょう。西小なんて行くとばんばんですもんね。5年生、6年生になると狭い、体がでかいから。南小に来ると、5年生、6年生はでかくても、やっぱり一日で回るとよくわかりますよ、ここは恵まれているなあと。今言われた本当にそのとおりです。少ないというのは目が行き渡りまずでしょう。

○長屋教育長 確かに南小は学年60人を超えることはないです。それで40人を下回ることもない。ということは、学級編制上いつも30人以下になっている。他の2つの小学校は、そういう点では本当に40人近い学級もあることは事実です。ですので、1クラスの学級の人数の面からいったら、これは大きな影響の一つかも知れません。でも、それははっきりわからない。

○吉田委員長 一長一短ありますよね、多い少ないは。

○丹羽（孝）委員 今、数学なんかだと、少人数の小さなクラスで成績が上がったんじゃないか

ということを言われましたよね。南小学校は全教科少人数制ということなので、それだけ。

○丹羽（茂）委員　だから、こんなに資料をつくっていただけるならば、横軸に例えば生徒数と、縦軸にその点数。そうすると、強い相関関係があるのか、人数の多少と点数の高低の差がね。すごくばらばらにプロットすると、ああやっぱり人数関係ないんだとなるし、人数が少なければ少ないほど点数が上がると、この楕円がきゅっと伸びてきて、これは強い相関関係があるからという資料つくっていただくと、非常にわかりやすいと思うんですけどね、人数と点数。

○中里職務代理者　例えば算数の場合だと、どこの小学校も分けていませんか。クラスを2つに分けて人数を少なくして、それで勉強しているわけですよね。そうすると、南小はどうなんでしょう。その少ない人数をさらに2つに分けて。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事　分けています。

○中里職務代理者　じゃあさらに少なくなるわけですがけれども、分けたとしても算数だけ見ると数字にばらつきがあるということは、一概に人数だけでは言えないということもあるとは思いますが、やっぱり少ないということが結果を上げることがもし見えてくるんだったら、ぜひ西小とかにも少人数制を導入して、学力を上げていこうという動きに加速がなると思うので、何かそういう資料があったらぜひ。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事　そうですね。確かにこの資料の中にも、西小学校さんは算数に関して高いんですね。結構点数をとっているんですよ。西小学校さんのほうの授業の形態を見てみると、算数はやっぱり少人数で実際やっているから、今中里委員さんが言われたものが、もしかしたら見えるかもしれません。

○長屋教育長　1つ、勉強とは関係ないですが、挨拶の件から見ますと、各学校回って挨拶運動をやっているんです。そうすると、南小学校はどの方も本当によく挨拶をすると、元気よく挨拶するなあという声を聞きます。西小学校へ行くと元気ないなあという声を聞きます。じゃあ先生たちの指導はどうかというと、先生たちは当然同じように挨拶の大切さは南でも西でもやっているだけですが、そういう状況もあります。そうすると、勉強というのは、学校で勉強するのは中心ですが、いろんな学習の構えということになると、家庭での環境というのも結構影響する面がありまして、そういう点で家庭的には南の子は結構恵まれているかなあということも影響しているのかなあ、あると思います。

○中里職務代理者　地域の特色、住んでいる場所とか環境が。

○長屋教育長　これもはっきりしたことではありません。

○中里職務代理者　そうですね。いろんな要素が絡み合っているということではあるとは思いますが。

○吉田委員長　じゃあよろしいでしょうかね。とにかく教科センター方式の意味は、学力を上げ

るということで。

○長屋教育長 済みません、もう1つ最後に。

実は各小学校の数値というのは、示されて出てきたものじゃなくて、こちら側で計算をしてつくったものです。それで、文科省のほうについては、教育委員会のほうには各市町村とか県別の資料しか出てきておりません。公表ということをもともと考えたわけではありませんので、その点で今後どうなっていくのかということが大変心配ですが、最近静岡県で、静岡県というのは大変数値的に見ると低かったというようなことから、低い学校の校長名を公表するぞということで、ちょっと問題になっておりまして、取りやめていいほうの学校の校長名を公表するということをやったようですが、くれぐれも慎重に扱っていきたいというふうに思っております。

○吉田委員長 それでは、（3）番、第11回伝統芸能発表会について、お願いします。

○熊崎町立図書館長兼歴史民俗資料館長 歴史民俗資料館のほうからですけれども、例年行っている伝統芸能発表会、去年とおとしはちょっと雨で中止ということで、もうずうっと何回も、11回やってきて2回ほど雨だったということで、ことしも10月20日に行います。委員さんが交代されるということもありますけれども、新しい委員さんも含めて10月以降に御案内の文書を差し上げたいと思いますので、よろしくお願いします。御出席のほどよろしくお願いします。

○吉田委員長 御苦労さまです。

では、（4）番、大口町教育委員会後援名義の使用許可の報告についてお願いします。

○佐橋学校教育課長補佐 資料をつけさせていただいておりますけれども、大口町教育委員会後援名義使用に関する要綱5条4項の規定に基づき報告をさせていただきます。

使用許可につきましては1件、実績報告につきましては4件、それぞれ出ております。いずれの案件につきましても既に許可をお認めいただいた案件でございますので、御報告をさせていただきます。以上です。

○吉田委員長 ありがとうございます。

御質問よろしいですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○吉田委員長 では（5）番、行事予定についてお願いします。

○三輪学校教育課主査 それでは、10月と11月の行事予定について説明させていただきます。

まず、教育委員会の会議の関係であります。10月1日火曜日ですけれども、この日、教育委員さんの辞令交付式がまず朝ございます。その後9時半から中央公民館で臨時会、これは委員長と職務代理者の選出のための臨時会であります。10月の定例会につきましては、10月31日木曜日です。今度場所は大口北小学校を予定しておりますので、また御出席のほどよろしくお

願いいたします。

11月ですが、11月の定例会につきましては11月28日木曜日、この日は大口西小学校というふうに予定を組ませていただいております。よろしく願いいたします。

あと10月に入りますと、大口中学校の体育大会、そしてまた大口町の町民体育祭というものがまた予定されております。こちらにつきましては、また10月1日の臨時会の折に、また御案内をさせていただきたいと思いますので、また御都合をつけていただきまして御出席いただきたいと思います。

行事予定につきましては以上です。

○吉田委員長 行事予定について、いかかでしょうか。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 済みません、1つお願いします。

10月24日の木曜日です。大口南小学校、ここで学校訪問がありますので、また御指導のほうを、御都合がつけばお願いしたいと思います。

○吉田委員長 学校訪問、それから定例会、よろしかったですか。

○長屋教育長 財政援助団体監査というのは、これ何ですか。10月8日。

○竹本生涯学習課長 今回うちに来ていませんので、多分うちに関係ないと思います。

○長屋教育長 関係ないですよ。11月にも書いてあるから。

---

## ◎日程第7 その他

○吉田委員長 それでは7番、その他について。

○熊崎町立図書館長兼歴史民俗資料館長 また歴史民俗資料館のほうからですけれども、恒例になっています年4回の企画展ということで、秋の企画展が10月26日から12月8日まで開催いたします。題名としては、「文化財収蔵庫ってどんなところ？」ということで、いつも倉庫の中に眠っておる文化財というか、昔の道具を企画展室に陳列をして見ていただく。2日間ですね、11月2日と11月24日に先着20名ということで、午前と午後分けて収蔵庫内の見学ツアーというようなことも予定をしております。もしお時間があれば、一度見ていただければ幸いですと思いますので、ここで御紹介させていただきます。よろしくお願いします。

○吉田委員長 これ、いつも20名はすぐ埋まるんですか。

○熊崎町立図書館長兼歴史民俗資料館長 探検ツアーというのは、今回文化財収蔵庫という企画をやっていますので、毎回違う企画をしていますので、今回初めてです。

○吉田委員長 そうでしたか。御苦労さまでございます。

○中里職務代理者 済みません、話をちょっと戻して申しわけないんですけれども、先ほどの全国学力テストの結果についてなんです、これは個人の生徒の結果はもちろん家庭に行くとは



思うんですけれども、例えばその小学校での平均とか、それと大口町の平均、そして全国との平均というような数字は、各御家庭のほうには流されないのでしょうか。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 数字のほうは公表はしない。ただ、全国平均からしてどの程度にいるかということはお示ししたいと。あと質問紙のところで、各学校に傾向がありますので、その分析を行って各家庭のほうにお知らせする。

○中里職務代理者 その質問の内容に関しては各家庭に報告する。

○伊藤学校教育課主幹兼派遣指導主事 数値としてはお知らせしないという方向で考えております。

○中里職務代理者 はい、わかりました。

○長屋教育長 今度の小学校の運動会、どういうふうに、3校を回りますか。

○吉田委員長 私は法事が、済みません。

○中里職務代理者 私は行きます。

○長屋教育長 そうしたら3校回るということで、9時15分からですので、9時に中央公民館でいいですか、玄関へ。

○丹羽（茂）委員 ちょっと一言だけ。さきの学区の、メンバー全部かわられていたんだけど、学区の再編成を新しい教育委員さんが見えたときに一遍検討してもらいたいなあと、私の個人的な、一遍頓挫しちゃった。というのは、西小区を南小区に少し持ってきたらどうだという案を出したわけ、人数が。校舎ばかり建てるんじゃなくて、例えばものづくりだって、あいた工場とぱんぱんの工場だったら、あいた工場へ移管するでしょう。ということを一遍またぶり返してもらえんかなあと、一言です。南小に来たほうが近い人はいるでしょう、西小で。

○長屋教育長 いや、西小で南小へ来たほうが近いという人はいないです。というのは、一番近くのところでも竹田地区ですわね。それから、北小だと下小口の中学校に近いところですね、一番近いところは。だから、距離的な面でいくと。

○丹羽（茂）委員 大口町の全体のレベルを上げるための環境を薄めるための学校区の再編をもう一回、一遍頓挫して諦められちゃっているんです。

○長屋教育長 それはいつのことですか。

○丹羽（茂）委員 それは井上教育長さんのころに一遍頓挫しちゃったんですね。子ども会どうするんだ、PTAの関係もあって。

○吉田委員長 余野三丁目のことじゃないですか。

○丹羽（茂）委員 あのときに。

○中里職務代理者 西小の話で何か持ち上がったのを覚えています。

○丹羽（茂）委員 そのとき、一遍南小が教室ががらがらだからという話をしたんです。まあ、

それだけです。次にお願いします。事務局、頭に置いておいてください。

○吉田委員長 それではよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○吉田委員長 では、教育委員会 9 月定例会を終わります。お疲れさまでした。

(午前 10 時 59 分)

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

委 員 長

委 員